

平和施策の推進

現状と課題

国際化が進展し、ますます多様化する国際社会の中で、今なお世界のどこかで争いが続いています。戦後、我が国には平和と豊かさがもたらされ、悲慘な戦争の記憶が薄れつつあります。平和の大切さを再確認し、平和を愛する社会をはぐくみ、築くことが求められています。

本市は、昭和58年（1983年）12月10日、兵庫県内でいち早く、核兵器の廃絶と平和を愛する社会の構築を掲げた「平和非核都市」を宣言しました。

平成8年にJR西宮駅前南広場に平和モニュメント「平和の交響」を設置し、また、平成14年には、戦争の悲慘さや平和の尊さを学ぶ場として平和資料館を開設するなど、啓発活動に取り組んでいます。

被爆・終戦から60年以上が経過し、当時を知らない世代が多くを占める現在、戦争の恐ろしさや悲慘さを風化させず、平和の尊さを世代を超えて語り継ぎ、「平和非核都市宣言」に基づき、核兵器のない平和な社会の実現に努める必要があります。



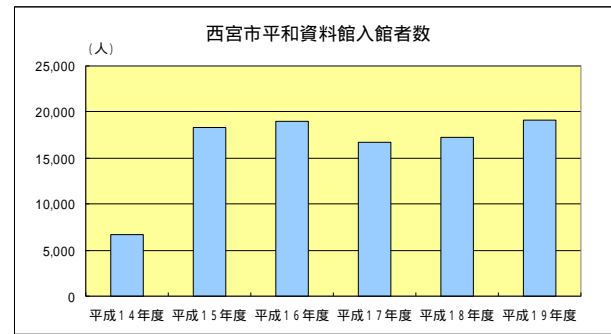
平和非核都市宣言碑(市役所本庁前)



西宮市平和資料館



原爆展



平成14年度は12月12日から3月末日まで

基本方針

「平和非核都市宣言」の精神に基づき、日々変化する世界情勢など時代の趨勢を捉えながら、平和意識を醸成していくための、広報・啓発活動や学習の場の提供を市民とともに推進します。

主要な施策展開

(1) 平和非核意識の高揚

「平和非核都市宣言」の精神に基づき、戦争や平和について学ぶ機会を、ライフステージ⁽¹⁾を通じて提供するとともに、原水爆禁止西宮市協議会と連携し、原爆展や平和のつどい、街頭啓発活動などの啓発事業を推進します。

(2) 情報の収集と提供

時代の趨勢と市民ニーズを踏まえた啓発事業が行えるよう、情報を収集するとともに、国内の他都市との連携や国際的な交流を通じた情報交換を図ります。また、市民への情報提供に努めます。

(3) 平和資料館の充実

第2次世界大戦当時の本市に関する資料の収集・保存に努めるとともに、それらを活用した展示内容の充実や展示方法の工夫などの検討を進めます。

市民一人ひとりの活動

平和意識を高める。
国際的な問題に関心を持つ。

まちづくり指標

< 指標の考え方 >

平和意識を醸成していくため、平和関係事業やイベントへの市民の参加を重点指標に位置付けます。

重点	指標名	単位	現状値(H18)	目標値(H30)	指標方向
	平和関係事業・イベントの参加者数	人	4,486	5,300	↑
	H30目標値の設定理由	式	-	-	過去の実績より設定
	平和資料館の入場者数	人	17,245	20,000	↑
	H30目標値の設定理由	式	-	-	過去の実績より設定
	啓発活動の参加団体の割合	%	70	100	↑
	H30目標値の設定理由	式	参加団体 / 原水禁西宮市協議会加盟団体数	-	過去の実績より設定

1 [ライフステージ] 人生のある時期(段階)